

「春休みの出来事について書いた文章を読み直そう」

～主語と述語との関係などに注意して文を正しく書く～

文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、この課題を解決するために、本問を活用し、主語と述語との関係に注意して文を正しく書くことの指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は、第3学年以上を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

A5 書いた文章を読み直す（春休みの出来事）

A5 正答率 **35.8%** 【春休みの出来事の一部】の中で、---部と---部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す

学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕

伝国 (1) イ (キ)

授業アイデア例

前時までに、春休みの出来事についての文章を書いています。本時では、主語と述語との関係を中心に、書いた文章が相手に正しく伝わるかという観点で推敲します。

学習活動1 本時のめあてを確認する

■ 本時では、伝えたいことが相手に正しく伝わるように文や文章を整えることを確認する。

学習活動2 本問を活用し、文章を読み返すときのポイントについて話し合う

この文章を読んでみたら、線を引いた文が、何かおかしいなと思ったんだけど…。

用具の手入れをしなかったのは「ぼく」だから、主語がおかしいんじゃないかな。

「反省点は」が主語だから、述語が「しませんでした」だと合わないよね。

そうか。主語と述語とのつながりがおかしいんだね。

なるほど。主語と述語とをつなげて声に出して読んでみると、間違いが分かるね。「反省点は、しませんでした。」だとおかしいよね。

主語の「反省点は」に合わせて、述語を「しなかったことです」に書き直したらいいと思うよ。

主語を「反省点は」から、「ぼくは」に書き直すこともできると思うよ。

春休みの出来事について書いた文章を読み直そう

めあて

相手に正しく伝わる文章にするために、文章を読み返そう。

ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。今年の春休みは、とてもじゅう実したのとなりました。でも、反省していることもあります。

反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

どのように書き直せば正しく伝わるか

反省点は、用具の手入れをあまりしなかったことです。

ぼくは、用具の手入れをあまりしませんでした。

・主語と述語とのつながりを考える。

文章を読み返すときのポイント

文章を読み返す際には、児童の実態に応じて、書いた文章を音読してみることなども考えられます。

ポイント

学習活動3 学習したことを基に、春休みの出来事について書いた文章を推敲し、読み直す

■ 最初に書いた文章と推敲後の文章とを比べる。



書いているときには気付かなかったけれど、読み直してみると、最初に書いた文章は、相手に正しく伝わるものになっていないことが分かったよ。

本授業アイデア例

活用のポイント！

- 文や文章を書く際には、主語と述語との関係に注意するなど、正しく書くことの大切さに気付くことができるようにすることが重要です。そのためには、書いた文章を推敲する学習を繰り返し、書き直したものが読みやすくなり、相手に伝わったということを児童が実感できるように指導することが大切です。
- 文を書くに当たって、主語と述語との関係だけではなく、修飾と被修飾との関係や、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「なにを」、「どのように」、「なぜ」など、文の構成について理解することができるように学習活動を工夫することも大切です。